

中学２年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学附属中学校

教諭 堀内 千幸

１．単元名 １・２年合同奈良めぐり

－雑誌作成を通して見つめなおす、奈良の魅力とこれから－

２．単元の目標

- 現在の奈良県の地域の様子や観光資源等を知り、生活面や観光面において関連した課題があることを理解する。 (知識・技能)
- 奈良県の魅力や課題について調べたり取材したりし、雑誌作成を通して人々に発信することができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 奈良県について意欲的に調べたり、知ろうとしたりする行動をとることができる。これからの奈良県に必要なことを考え、提案できるようになる。(主体的に学習に取り組む態度)

３．単元について

(１) 教材観

本教材は、地域学習を通し奈良について学ぶことで、奈良の魅力を見つめ直し、これからの奈良を考えることを目的とした総合的な学習の時間の学習教材である。

奈良県は多様な文化財や自然をもつ日本でも有数の観光地で、国内外から様々な観光客が訪れる場所であるが、生徒にとっては生活圏の一部である。学校行事や家族の外出などで奈良の文化財や自然、レジャー施設を訪れる機会もあるが、奈良県の良さや魅力を理解したり、他者に伝えたりする機会は少ない。

そこで本教材において、取材や雑誌編集という活動で能動的に奈良を知り学ぶことで、奈良県のもつ魅力に自ら気づくだけでなく、オーバーツーリズムなどの諸問題を通し、観光地としての奈良県と生活圏としての奈良県を考えさせることができる。

(２) 生徒観

本学年の生徒は、学習に対して意欲的で、特に体験や行事に前向きに取り組む姿勢が見られる。生徒たちにとって奈良県は居住地でもあるが、観光地としての側面もある。海外からの観光客に道を聞かれるなど、観光地を実感する場面もある。しかし、自分たちの住む奈良県については、歴史や文化の一面しか知らなかったり、関心が薄かったりする生徒が多いため、奈良県の歴史や文化に関する知識や理解を深めるとともに、奈良県の観光面での課題や、伝統工芸などを奈良で生活する人に伝える方法を考える能力や態度を育てることが求められる。また、奈良県の観光面での課題についても取材や調べ活動、意見交換等を通して身近に多々あることに気

づかせたい。

(3) 指導観

本単元では、雑誌作成を通して奈良県の歴史や文化に関する知識や理解を深めるとともに、奈良県の観光面での課題や、伝統工芸などを奈良で生活する人に伝える方法を考える能力や態度を育てることを目指す。本単元の指導にあたり、まず奈良について知っていること、魅力、課題について個人やグループで考えさせ、観光面としての奈良と、生活面としての奈良の魅力と課題に気づかせる。

次に雑誌作成に向け、取材先の選定や取材交渉等をグループで考えさせる。修学旅行で奈良を訪れる中高生を主題とし、副題として奈良で生活する人にも手に取ってもらえるように、という視点で選定や取材、編集などの活動を行わせたい。また取材では魅力等だけでなく、奈良の課題についても取材させる。活動を通し、能動的に関わったり、自分事として考えたりする機会に繋げたい。

奈良の課題については、「鹿との共存」や「オーバーツーリズム」、「伝統工芸品の奈良県民への周知や存続に向けて」、「中心的な観光地が奈良市周辺に集中しており、県南部や県北部の観光資源が十分に活用されていない」などが挙げられる。生活面と観光面においての魅力と課題等をグループで整理や話し合いを行い、これからの奈良について考えさせたい。さらに本単元全体の活動を通して、奈良の関係人口を増やすことを目的としたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…現在生活している奈良県は、観光地としての側面も持ち合わせている。しかし、オーバーツーリズムなどの課題が取り上げられるため、その両立を図ることが未来に繋がる。

連携性…これからの地域は、その地域に暮らす者だけでなく、観光客などの関係人口を増やし、その人々と共に支えていくことが大切である。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーションを行う力

グループや取材先の人達と交流し、より良いコミュニケーションのとり方を考え、身に着けようとする。

他者と協力する力

雑誌作りの活動を通し、取材先や生徒間での意見交流から自分の考えをもち、他者に伝えるだけでなく、より良い考えに繋げようとする。

多面的・総合的に考える力

居住地としての奈良と観光地としての奈良について考えたり、他の生徒や世代の人達の意見を聞いたりすることで、自分達にできることは何かを考えようとする。また、これからの奈良県や日本について考えようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

自分たちだけでなく、他の世代と協力し、これからの考えたまちづくり、地域づくりが大切である。

世代内の公正

自分の周囲だけでなく、県内の他の地域に住む人とも協力し、これからの地域づくりや、まちづくりを考えることが大切である。

人権・文化を尊重する

古都・奈良の文化財や伝統工芸などの維持や存続に意識を高める。

・達成が期待される SDG s

1 1 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
①居住地と観光地としての二つの側面があることや、奈良の魅力と課題について理解している。 ②調べたり、取材したりしたことをもとに雑誌を作成し、多面的に考えている。	①奈良の魅力と課題について、自分の考えや解決策を考え伝えている。 ②他者と協力し話し合いや取材を行い、雑誌作成を通し、他者に情報を発信している。 ③調べたり、取材したりしたことをもとに、これからの奈良について多面的・総合的に考えている。	①他者と協力しながら、課題解決に向けて自分ができることを考え行動しようとしている。 ②他者との意見交流から、課題発見や解決に向けて模索しようとしている。

5. 単元の指導計画（全9時間）

学習活動	学習への支援	評価・備考
1 奈良県について知っていることをもとに、学習の見通しをもつ。	・観光資源や文化財、伝統工芸等への理解を深める。 ・観光と関連した課題や、生活面での課題に目を向けさせる。また、その課	ア①

	題が相互に影響していることを意識させる。	
2 取材先の選定、交渉を行う。 3 講師を招き、取材や雑誌編集について学ぶ。	・事前に現地を下見し、どのような観光資源があるか確認する。 ・修学旅行で訪れる中高生を主題として、副題として奈良県で生活している人に知ってほしい場所や内容を基準に検討する。	ア② イ①, ②
4 現地で取材する 5～7 取材したことをもとに、雑誌作成を行う。	・当日気になった施設等があれば、交渉して取材を行う。 ・魅力だけでなく、課題についても取材を行う。 ・修学旅行で訪れる中高生を中心として編集を行うよう意識させる。また、奈良で生活している人にも手に取ってもらえる工夫を考えさせる。 ・魅力だけでなく、課題を発信する方法も考えさせる。	ア② イ② ウ①
8・9 活動の振り返りを行う ・取材を通して見えた奈良の魅力と、課題解決の方策や、奈良のこれからを考える。	・奈良との関係人口を増やす方法や、奈良で生活する人が伝統産業や文化財などに積極的に関わるにはどうすれば良いか考えさせる。	イ③ ウ②